

平成24年度

東京芸術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験 試験内容及び課題曲

(本冊子は表紙を含め全43ページ)

※発表した課題曲の内容等についての電話等による問い合わせには応じない。

声種・楽器等の略記について

本学では、下記のとおり声種・楽器名を略記することがあるので、参考までに記載します。

【 略 記 一 覧 】

専攻・声種・楽器名	略記	専攻・声種・楽器名	略記
作曲	／	ホルン	Hr
ソプラノ	S	金	
アルト	A	トランペット	Tp
テノール	T	テナー・トロンボーン	TTb
バス	B	バス・トロンボーン	BTb
ピアノ	Pf	管	
オルガン	Org	ユーフォニアム	Euph
ヴァイオリン	Vn	チューバ	Tu
ヴィオラ	Va	打楽器	Pc
チェロ	Vc	バロック声楽	BV
コントラバス	Cb	バロックヴァイオリン	BVn
ハープ	Hp	バロックチェロ	BVc
フルート	Fl	リコーダー	Rec
オーボエ	Ob	チェンバロ	Cemb
クラリネット	Cl	バロックオルガン	BOrg
ファゴット	Fg	フォルテピアノ	FP
サクソフォーン	Sx	指揮	／
		邦楽	／
		楽理	／
		音楽環境創造	／

○ 略記の表現について
 1. 原則として、2字以内にまとめた。
 2. 科目名等は、日本語のままとし、声種・楽器名を略記の対象とした。

平成24年度東京芸術大学 学生募集要項 (音楽学部・大学別科)の配布について

1. 配布時期 12月上旬

2. 配布方法

(1) 学生募集要項は、無料です。

(2) 本学での配布は、音楽学部教務係または守衛所で行います。

(3) 郵送による申し込みは、下記要領に従い「返信用封筒」を郵送して下さい。

(配布時期の2週間前から受け付けます。)

申込用封筒 (定型封筒で可)
[90×205mmまたは120×235mm]

〒110-8714	東京芸術大学音楽学部教務係	台東区上野公園12-8
90円 切手		
平成24年度 別科募集要項 請求		

←
折り込む

返信用封筒 (角型1号封筒)
[270mm×382mm]

〒〇〇〇-〇〇〇〇	氏名	申込人住所
580円 切手		

試験内容及び試験曲等

●専攻実技等

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
作曲		第1回	与えられたバス及びソプラノの声部により、それぞれ4声体の和声を作る。 (各3時間)
		第2回	与えられた主題により、対位法的楽曲を作る。(5時間)
		第3回	与えられた動機あるいは詩により楽曲を完成する。なお、楽器編成は下記から試験当日指定する。 フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、 トロンボーン、ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、ピアノ、 独唱、合唱 (8時間。ただし、途中昼食休憩の1時間を別に設ける。)
声乐	ソプラノ (S)	第1回	〔課題選択曲〕 志願者は、出願時に、次の頁に記載する課題選択曲の中から下記により合計8曲を選択し、提出すること。 A. 日本歌曲 4曲 B. 外国曲 4曲 (外国曲〈イタリア、ドイツ、フランス〉のグループに関係なく自由に選択して良い。) 志願者の提出した8曲の中から、本学が4曲 (A. から2曲、B. から2曲) を試験当日に指定する。志願者は、その4曲の中から2曲 (A. から1曲、B. から1曲) を選び、暗譜で演奏する。
	アルト (メゾソプラを含む) (A)		
	テノール (T)	第2回	〔自由曲〕 あらかじめ出願時に提出した任意の声楽曲1曲を暗譜で演奏する。ただし、第1回の課題選択曲として選択し、提出した曲を第2回の自由曲として選ぶことはできない。(従って、次の頁に記載された曲であっても、課題選択曲として選択しなかった曲を自由曲として選んで良い。)
楽器	バス (バリトンを含む) (B)	第3回	(1) F.Wüllner : Chorübungen I (全訳)。(抜粋及び省略本は不可)の中から試験の際指定する。 (2) 新曲視唱 簡単な旋律の視唱(出題曲は2曲。うち1曲はピアノ伴奏付) (3) 音符の音読 (4) リズム課題 (次頁に続く)

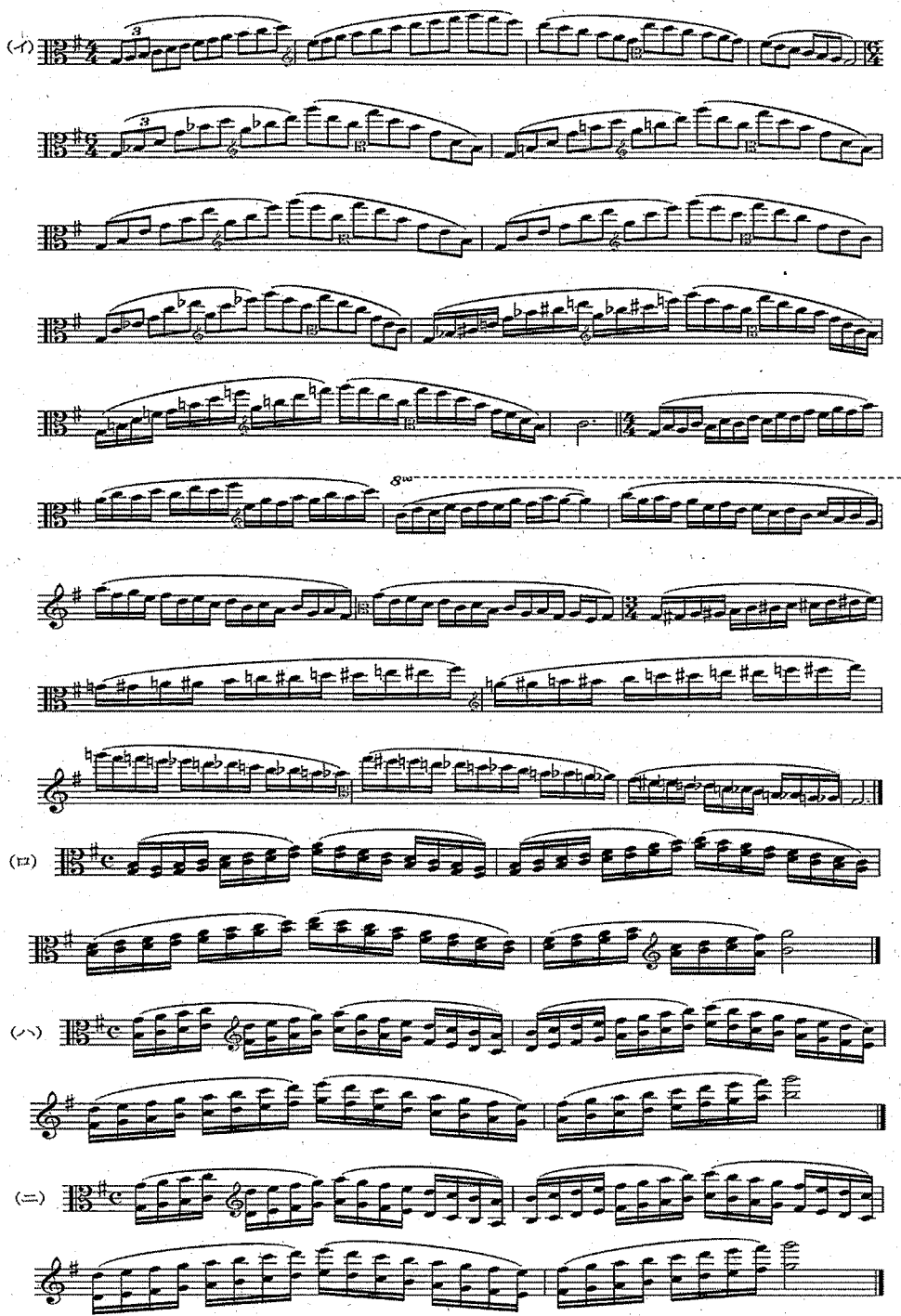
科	声 種	第 1 回 試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等		
声	ソプラノ (S)	B. 外国曲・ドイツ		
		16. Beethoven, L. v.	Ich liebe dich so wie du mich	WoO 123
		17. Brahms, J.	Dein blaues Auge	Op.59, 8.
		18. Brahms, J.	Sonntag	Op.47, 3.
		19. Mendelssohn, F.	Auf Flügeln des Gesanges	Op.34, 2.
		20. Mozart, W. A.	Das Veilchen	KV 476
		21. Schubert, F.	Frühlingsglaube	Op.20, 2.
		22. Schubert, F.	Schäfers Klagelied	Op.3,1./D 121
		23. Strauss, R.	Du meines Herzens Krönelein	Op.21, 2.
		24. Strauss, R.	Zueignung	Op.10, 1.
声	アルト (メゾソプラノを含む) (A)	25. Wolf, H.	Gebet	Mörke-Lieder 28.
		B. 外国曲・フランス		
		26. Berlioz, H.	Villanelle	
		27. Debussy, C.	Nuit d'étoiles	
		28. Duparc, H.	Chanson triste	
		29. Fauré, G.	Clair de lune	
		30. Fauré, G.	Mandoline	
		31. Fauré, G.	Lydia	
		32. Fauré, G.	Les berceaux	
		33. Fauré, G.	Ici-bas	
楽	テノール (T)	34. Gounod, Ch.	Sérénade (第1節、第3節)	
		35. Massenet, J	Élégie	
		B. 外国曲・フランス		
		26. Berlioz, H.	Villanelle	
		27. Debussy, C.	Nuit d'étoiles	
		28. Duparc, H.	Chanson triste	
		29. Fauré, G.	Clair de lune	
		30. Fauré, G.	Mandoline	
		31. Fauré, G.	Lydia	
		32. Fauré, G.	Les berceaux	
楽	バス (バリトンを含む) (B)	33. Fauré, G.	Ici-bas	
		34. Gounod, Ch.	Sérénade (第1節、第3節)	
		35. Massenet, J	Élégie	
		B. 外国曲・フランス		
		26. Berlioz, H.	Villanelle	
		27. Debussy, C.	Nuit d'étoiles	
		28. Duparc, H.	Chanson triste	
		29. Fauré, G.	Clair de lune	
		30. Fauré, G.	Mandoline	
		31. Fauré, G.	Lydia	

(次ページに続く)

(次ページに続く)

科	声 種	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等
声 <		

科		専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等																																																																									
器	鍵盤	ピアノ (P f)	第一回	a) J.S.Bach: 平均律ピアノ曲集(1巻または2巻)より任意の1曲(プレリュード及びフーガ) b) Chopin: 練習曲Op. 10及びOp. 25より任意の2曲を提出する。 b)については、当日各自の抽選により1曲を演奏する。 Ⅰ)演奏は、すべて暗譜とする。繰り返しは省略する。 Ⅱ)当日、時間の都合により一部を省略させる事がある。 Ⅲ)曲順は、各自の自由とする。																																																																								
	盤		第二回	下記a)、b)およびc)より、それぞれ選択し提出する。 a) Beethoven: ピアノソナタより任意の1曲(全楽章) b) 下記の作曲家群Ⅰ)及びⅡ)からそれぞれ1曲以上を選び、Ⅰ)から10分以上、Ⅰ)及びⅡ)を合わせて15分以上になるようにプログラムを組むこと。 Ⅰ) Schubert, Weber, Mendelssohn, Chopin, Schumann, Liszt, Brahms Ⅱ) Fauré, Debussy, Ravel, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartók なお、Ⅰ)のChopin、Ⅱ)のDebussy, Scriabin, Rachmaninoff, Prokofieff, Bartókについては練習曲以外の作品を演奏すること。 c) 課題曲演奏 Ⅰ)演奏はすべて暗譜とする。 Ⅱ)8小節程度までの繰り返しは自由とする。それ以外の繰り返しは省略する。 Ⅲ)b)については、ソナタ・組曲からの楽章の抜粋は可。変奏曲の抜粋は認めない。 Ⅳ)演奏曲順は、c)、a)、b)Ⅰ、b)Ⅱとする。 Ⅴ)当日、時間の都合により一部を省略させることがある。 Ⅵ)c)の課題曲は平成24年1月25日(水)16時以降に本学音楽学部教務係及び守衛所での配布のほか、本学ホームページに掲載する。																																																																								
楽	器	オルガン (Org)	専攻実技試験で使用するオルガンの仕様																																																																									
	鍵盤		<table><tr><td>Pedal</td><td>13. Krummhorn</td><td>8'</td><td>26. Nasard</td><td>2%</td></tr><tr><td>1. Subbass</td><td>16'</td><td>14. Tremulant</td><td>27. Superoktav</td><td>2'</td></tr><tr><td>2. Principalbass</td><td>8'</td><td>15. I/P</td><td>28. Mixtur</td><td>4f</td></tr><tr><td>3.Rohrpommer</td><td>8'</td><td>16. II/P</td><td>29. Trompete</td><td>8'</td></tr><tr><td>4. Choralflöte</td><td>4'</td><td>17. III/P</td><td>(III) Schwellwerk</td><td></td></tr><tr><td>5. Piffaro</td><td>2f</td><td>18. III/I</td><td>30. Rohrflöte</td><td>8'</td></tr><tr><td>6. Dulcian</td><td>16'</td><td>19. I/II</td><td>31. Salicional</td><td>8'</td></tr><tr><td>(I) Brustwerk</td><td>20. III/II</td><td>32. Vox coelestis</td><td>8'</td><td></td></tr><tr><td>7. Holzgedackt</td><td>8'</td><td>(II) Hauptwerk</td><td>33. Principal</td><td>4'</td></tr><tr><td>8. Spillpfeife</td><td>4'</td><td>21. Quintade</td><td>16'</td><td>34. Blockflöte</td><td>2'</td></tr><tr><td>9. Principal</td><td>2'</td><td>22. Principal</td><td>8'</td><td>35. Sesquialtera</td><td>2f</td></tr><tr><td>10. Terz</td><td>1%</td><td>23. Gemshorn</td><td>8'</td><td>36. Scharff</td><td>3f</td></tr><tr><td>11. Oktav</td><td>1'</td><td>24. Oktav</td><td>4'</td><td>37. Hautbois</td><td>8'</td></tr><tr><td>12. Cymbel</td><td>3f</td><td>25. Holztraverse</td><td>4'</td><td>38. Tremulant</td><td></td></tr></table> [演奏補助装置] Handregister+2 Freie Kombinationen, Zungen ab, Mixtur ab (Klais社製)	Pedal	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2%	1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'	2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f	3.Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'	4. Choralflöte	4'	17. III/P	(III) Schwellwerk		5. Piffaro	2f	18. III/I	30. Rohrflöte	8'	6. Dulcian	16'	19. I/II	31. Salicional	8'	(I) Brustwerk	20. III/II	32. Vox coelestis	8'		7. Holzgedackt	8'	(II) Hauptwerk	33. Principal	4'	8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	16'	34. Blockflöte	2'	9. Principal	2'	22. Principal	8'	35. Sesquialtera	2f	10. Terz	1%	23. Gemshorn	8'	36. Scharff	3f	11. Oktav	1'	24. Oktav	4'	37. Hautbois	8'	12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	4'
Pedal	13. Krummhorn	8'	26. Nasard	2%																																																																								
1. Subbass	16'	14. Tremulant	27. Superoktav	2'																																																																								
2. Principalbass	8'	15. I/P	28. Mixtur	4f																																																																								
3.Rohrpommer	8'	16. II/P	29. Trompete	8'																																																																								
4. Choralflöte	4'	17. III/P	(III) Schwellwerk																																																																									
5. Piffaro	2f	18. III/I	30. Rohrflöte	8'																																																																								
6. Dulcian	16'	19. I/II	31. Salicional	8'																																																																								
(I) Brustwerk	20. III/II	32. Vox coelestis	8'																																																																									
7. Holzgedackt	8'	(II) Hauptwerk	33. Principal	4'																																																																								
8. Spillpfeife	4'	21. Quintade	16'	34. Blockflöte	2'																																																																							
9. Principal	2'	22. Principal	8'	35. Sesquialtera	2f																																																																							
10. Terz	1%	23. Gemshorn	8'	36. Scharff	3f																																																																							
11. Oktav	1'	24. Oktav	4'	37. Hautbois	8'																																																																							
12. Cymbel	3f	25. Holztraverse	4'	38. Tremulant																																																																								
楽	器		第一回	(1) J.S.Bach “Orgelbüchlein”より次の曲から当日指定する。 BWV601、BWV603、BWV608、BWV609、BWV611、BWV615、 BWV616、BWV618、BWV623、BWV628、BWV630、BWV633、 BWV636、BWV641、BWV643 (2) D.Buxtehude: Praeludium in g BuxWV 148																																																																								
	第二回		(3) F.Mendelssohn-Bartholdy : Sonate IV op.65/4 1,2,4楽章 (4) J.S.Bach: Praeludium et Fuga in C BWV 547																																																																									
(注1) (2)のD.Buxtehude: Praeludium in g BuxWV 148は暗譜演奏とする。 (注2) 当日、時間の都合により一部を省略させることがある。 (注3) 各課題曲のレジストレーションについては、レジスタータイムに標準的な物を大学側が示すので、適宜参考にしてもよい。																																																																												

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
器 弦	ヴァイオラ (Va)	第一回	(A) 音階 ト長調 (G-dur)で、次のイ、ロ、ハ、ニの各種を指定されたスラーで演奏すること。 (Carl Flesch: Scale System (Carl Fischer版)による。)  ※フィンガリングは自由とする。 (B) Palaschko 20 Studies Op.36 より 第2番 (C) Campagnoli: 41 Caprices Op.22 より 第3番 (注) すべて暗譜とし、使用する楽譜の出版社は特に指定しない。 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A)(B)(C)の順とする。
			(次頁に続く)

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等		
器楽	弦楽	ヴァイオラ (V a)	第二回	(A) J.S.Bach: 無伴奏チェロ組曲第3番BWV1009(ヴァイオラ用に編曲された版)より Courante ※繰り返しは無しとする。 (B) C.Stamitz Viola concreto No.1 ニ長調 (D-dur) より 第1楽章(カデンツァ付き) ※Henle版を使用し、カデンツァはCadenza Aを演奏すること。 (注) すべて暗譜とし、協奏曲はピアノ伴奏付きで演奏すること。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 時間の都合により一部を省略させることがある。 演奏は(A)(B)の順とする。

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等		
器楽	弦楽	チェロ (Vc)	第二回	(A) J.S.Bach : 6 Solo Suites より第3番 (BWV1009) より「Courante」を演奏する。 繰り返しはなしとする。 (B) J.Haydn : Concerto C-dur より 第2楽章 (初めから第88小節まで) 及び 第3楽章 (初めから第157小節まで) を演奏する。 (注) すべて暗譜とし、ピアノ伴奏付きで演奏すること。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない。) 使用する楽譜の出版社は特に指定しない。 時間の都合により一部を省略させることがある。

科	専 攻 (声 種 ・ 楽 器 等)	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等	
器 弦	弦	コントラバス (C b)	(C) F.Simandl NEW METHOD FOR THE DOUBLE BASS BOOK II Revised by F.Zimmermann(Carl Fischer版を使用すること)より20頁 Etude II . Allegro non troppo 第一回  (注) ノーマルチューニングで演奏すること。 すべて暗譜とする。フィンガリングは自由とする。 時間の都合により一部を省略させることがある。 楽器の貸与はしない。
			Franz Anton Hoffmeister Concerto No.1 (Hofmeister版を使用すること) 第2楽章 56小節まで 第3楽章 155小節まで 第二回 (注) すべて暗譜とする。フィンガリングは自由とする。 ノーマルチューニング (ⅡはG-dur、ⅢはC-dur) で演奏すること。 ピアノ伴奏付きで演奏すること。 (伴奏者は本学で用意する。伴奏者の同伴は認めない) 試験当日のノーマルチューニングに移調した伴奏譜は本学で用意する。 伴奏の前奏部分の省略は当日指定する。 時間の都合により一部を省略させることがある。 楽器の貸与はしない。

訂正について

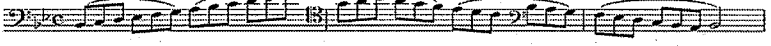
平成23年10月13日(木)より配布している「平成24年度東京芸術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験試験内容及び課題曲」(冊子)のコントラバスの頁で一部に誤りがありましたので、以下の通り訂正します。

コントラバス

(第一回)

(A) 音階 変ロ長調(B-dur) (♩ = 52~60) 上から1段目, 8段目及び9段目

(誤)

1段目 

8段目 

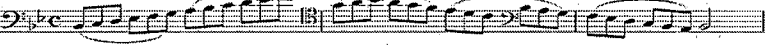
9段目 



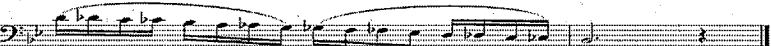
(第一回)

(A) 音階 変ロ長調(B-dur) (♩ = 52~60) 上から1段目, 8段目及び9段目

(正)

1段目 

8段目 

9段目 

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
器	弦	ハープ (Hp)	第一回 (A) N.Ch.Bochsa Célèbres Etudes Pour La Harpe : Cinquante(50)Etudes—第2巻より39番 (B) Scarlatti: Pastorale H.Renié=LesClassiques De La Harpe—第10巻より (C) M.Tournier: Sonatine pour Harpe—第1楽章 (注) 楽譜の版は特に指定しない。 すべて暗譜とし、繰返しなしとする。 時間の都合により一部を省略させることがある。
			第二回 (A) J.S.Bach Pièce en Sol<Transcribed by H.Renié> (B) L.Spohr Variations op.36, Sur l'air,<Je suis dans mon Prinremp> (注) 楽譜の版は特に指定しない。 すべて暗譜とし、繰返しなしとする。 時間の都合により一部を省略させることがある。

科	専 攻 (声種・楽器等)	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等		
器 管	打	管	◎木管楽器共通注意事項 ※出版社の指定のないもの以外は、何版にても可。 第1回 (1) 音階 全ての調の中より当日指定する。 *クラリネットは各調、次の音型(主和音)も演奏する。 (例)  (2) 音感適性検査 ピアノで弾いた音に対して、それぞれの楽器で同じ音を奏する。ただし、楽器によってはこの試験を課さないこともある。 (3) 課題曲 楽譜を使用してもよい。 第2回 (1) 課題曲 暗譜とする。 課題曲には、ピアノ伴奏をつける。ピアノ伴奏者は、本学において用意する。 (2) 自由曲 各専攻楽器欄参考 楽譜を使用してもよい。	
			第一回 (1) A.B.Fürstenau : Op.125(Bouquet des Tons) No. 3, 6, 20より当日指定する。 (2) C.Debussy : Syrinx	
		木 フルート (Fl)	第二回 (1) C.Reinecke : Concertoより第2,3楽章 以下のカットの通りに演奏すること。 第2楽章 冒頭から37小節まで演奏し、44小節へ入り、48小節まで。 第3楽章 11小節から40小節の1拍目まで演奏し、48小節へ。 その後126小節の1拍目まで演奏し、168小節へ。 ただし、168小節の最初の音は吹かない。 終結部が2種類ある場合、長い方を吹くこと。 ※息継ぎ等を書き込んだ伴奏譜を持参すること。(伴奏譜は返却する。) (2) 次のa)～h)の中より任意の1曲を演奏すること。 a) L.Berio : Sequenza I b) E.Bozza : Image c) C.Halfpfer : Debla (6分程度にカットすること) d) J.Ibert : Pièce e) 一柳 慧 : 忘れえぬ記憶の中に f) S.Karg-Elert : Sonata Appassionata g) S.Karg-Elert : 30 Studies Op.107よりNo.30 Chaconne	

専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲等	
器 管 木	オーボエ (Ob)	第一回	(1) L.Bassi : Twenty-Seven Virtuoso Studies for Sax or Oboe No.2,3,5,7,11,12,13,15,20,21以上10曲の中より当日指定する (Carl Fischer版)
		第二回	(1) F.Krommer: Concerto in F major Op.52より第1楽章 (Musica Rara版) (2) G.Ph.Telemann : Zwölf Fantasien für Querflöte ohne Baßより3番h-moll (何版にても可)
	クラリネット (Cl)	第一回	(1) E.Cavallini : 30 Capricci No.25~28の4曲 (Ricordi版) (2) A.Uhl : 48 Etüden für Klarinette No. 1~5の5曲 (Schott版) (3) C.Stamitz : Klarinetten-Konzert Nr.3 B-Dur (何版にても可)より第1楽章, 第2楽章 (1) (2) (3)とも演奏箇所は当日指定する。
		第二回	(1) C.M.v. Weber : Konzert Nr.1 f-moll für Klarinette und Orchester op.73 第1楽章 (ベールマンのカデンツァを含む) (2) a) U.Delécluse : 14 Grandes Etudes pour la Clarinette sur des motifs d'oeuvres classiques et modernes (Leduc版)より 第3, 6, 8, 9, 14番の中より任意の曲を1曲 b) A.Uhl: 48 Etüden für Klarinette (Schott版)よりNo.12 c) G.Donizetti: Studie 最初から101小節目まで d) G.Jacob: Five Pieces for solo clarinet より 2.Waltz と 5.Scherzo and Trio a)~d)の中から、ひとつを選んで演奏すること。
	ファゴット (Fg)	第一回	J.Weissenborn : Studies for Bassoon Op.8 Vol. II (何版にても可) No.1~No.21の中から当日指定する。
		第二回	(1) K.Stamitz : Konzert F-Dur für Fagott und Orchester 第1楽章 (Sikorski版)カデンツァあり (2) J.Weissenborn : Studies for Bassoon Op.8 Vol. II (何版にても可) No.22~No.43より任意の1曲を演奏すること。
	サクソフォーン (Sx)	第一回	(1) Marcel Mule : 48 Etudes d'après Ferling augmentées de 12 Etudes nouvelles en diverses tonalités より No.4,5,17,18,19,22,29,30,31,40の中から当日指定する。 (2) Raymond Gallois Montbrun : Six Pièces musicales d' étude (Leduc版)より 1.Ballade, 2.Finale ※上記数字は曲番号ではなく、演奏する曲順になります。
		第二回	(1) A.Glazounov et A.Petiot : Concerto en mi bémol (Leduc版)より 練習番号 1 から 16 ままでを演奏すること。 (2) a) Paul Bonneau: Caprice en forme de Valse (Leduc版) b) Paul Creston: Sonata 第3楽章 (Shawnee版) c) Alfred Désenclos: Prélude, Cadence et Finale より Prélude, Cadence (Leduc版) d) Pierre-Max Dubois: Concerto 第1楽章 (Leduc版) e) Ida Gotkovsky: Variations Pathétiques 第1楽章 (Billaudot版) f) Jacques Ibert: Concertino da Camera 第2楽章 28 Animato molto から終わりまで (Leduc版) g) Paule Maurice: Tableaux de Provence 第5楽章 (Lemoine版) h) Jeanine Rueff: Sonate 第1楽章 (Leduc版) i) Pierre Sancan: Lamento et Rondo (Durand版) a)~i)の中から、ひとつを選んで演奏すること。 (3) 初見視奏

訂正及び補足説明について
平成23年10月13日(木)より配布している「平成24年度東京芸術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験試験内容及び課題曲」(冊子)のクラリネットの頁で一部に誤りがありましたので、以下の通り訂正します。

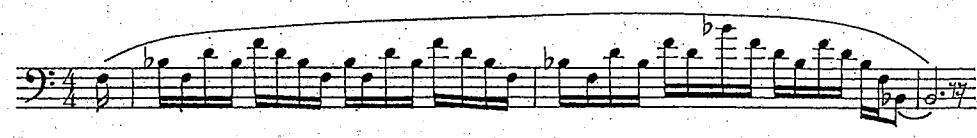
クラリネット

- (誤) (第一回)
(2) A.Uhl : 40 Etüden für Klarinette No. 1~5の5曲 (Schott版)
- ↓
- (正) (第一回)
(2) A.Uhl : 48 Etüden für Klarinette No. 1~5の5曲 (Schott版)

平成23年10月13日(木)より配布している「平成24年度東京芸術大学音楽学部・大学別科入学者選抜試験試験内容及び課題曲」(冊子)のサクソフォーンの頁で、以下の通り補足説明します。

サクソフォーン

- (第二回)
(2) Raymond Gallois Montbrun : Six Pièces musicales d' étude (Leduc版)より 1.Ballade, 2.Finale
※上記数字は曲番号ではなく、演奏する曲順になります。

		専攻 (声種・楽器等)	
器楽	管金		◎テナー・トロンボーン、バス・トロンボーン共通課題 E.Remington/Warm-Up Exercises for Trombone(Accura Music版)より下記の部分
			7th.positionまで演奏の事
	テナー・トロンボーン (TTb)	第一回	(A) M.Bléger: 10Caprices for Trombone (International版またはLeduc版) より、当日指定する。 (B) C.Kopprasch: 60Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) コブラッシュ:60のエチュード(トロンボーン) No.9,10,15,19,25,27,30 より、当日指定する。 (C) J.Rochut: Melodious Etudes for Trombone Book(1)(Carl Fisher版) No.16,27,41 より、当日指定する。
		第二回	F.David: Concertino for Trombone and Piano(Zimmermann版) より第1楽章、第2楽章(カデンツァあり) (注) 暗譜とする。
	バス・トロンボーン (BTb)	第一回	(A) C.Kopprasch: 60Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) コブラッシュ:60のエチュード(トロンボーン) No.8,13,20,21,25,26,28,36,39,43,44,46,48,50,59より当日指定する。 1オクターブ下げずに記譜通り演奏すること。 (B) J.Rochut:Melodious Etudes for Trombone Book(1)(Carl Fischer版) No.16,27,41 より、当日指定する。 1オクターブ下で演奏すること。
		第二回	E.Ewazen: Concerto for Tuba or Bass Trombone. 第1楽章 (ITA Southern版) (注) 暗譜とする。
打楽管	ユーフォニアム (Euph)	第一回	C.Kopprasch: 60Etudes for Trombone (全音楽譜出版社版) コブラッシュ:60のエチュード(トロンボーン) No.6~No.34より、当日指定する。
		第二回	P.V.De la Nux: Concert Piece for Trombone or Baritone and Piano (注)暗譜とする。
	チューバ (Tu)	第一回	C.Kopprasch:Sixty Selected Studies for Tuba(Hoffmeister版) No.6~No.33の中より、当日指定する。
		第二回	A.Lebedjew:Konzert für Tuba und Klavier (Konzert Nr.1) (Leipzig, Friedrich Hoffmeister版) (注)暗譜とする。 ※第1回、第2回とも、C管かB♭管を使用すること。

専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲等	
器	管	第二回	小太鼓 (1) Anthony J.Cirone : Portraits in Rhythm (Belwin-Mills版) No.6,12,20,27,35,41 の中より当日指定する。 (2) 鍵盤打楽器で音階2オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。 —Dolce, Staccato等、表情をつけて) (例)  (3) 三善 晃:会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ) マリンバ (1) 自由曲 (2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music社版)より(p.4～p.11まで) 当日指定する。 ティンパニ (1) L.Beethoven: Concerto for Violin and Orchestra ニ長調 冒頭から6小節間 A.Khachatorian: Gayne Ballet suite 1 より Sabre Dance 冒頭より27小節間 (注) いずれもオーケストラパートを歌いながらティンパニを奏すること。 (2) 小太鼓による演奏 Collection Drum Solos (Ludwig Music社版)p.4～p.11の中から 当日指定する。 (3) 鍵盤打楽器で音階2オクターブ演奏(各調の中より当日指定する。 —Dolce, Staccato等、表情をつけて)(小太鼓の(2)譜例を参照のこと) (4) 三善 晃:会話より 1, 3, 4 (音楽之友社・現代日本マリンバ曲集Ⅱ)
	打		打 楽 器 (Pc)
楽	楽		

科	専 攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等
器 古		◎古楽共通注意事項 ① ソロおよび伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ(W.ダウド製作a'=415, 8'8'4", FF-f")のみとする。 ② バロックヴァイオリン、リコーダーに必要な伴奏者は同伴すること。 ③ すべての受験生は、受験曲目提出用紙に演奏する作品名を書いて、出願とともに教務係に提出すること。 ④ 各自の演奏する楽譜を3部ずつ用意して演奏順に綴じ、出願とともに教務係に送付すること。ただし、チェンバロ出願者は、Scarlattiと組曲のみ用意すればよい。なお、所定の出願用封筒に用意した楽譜が入りきらない場合、出願書類は所定の封筒にて提出し、当該楽譜のみ「古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。このとき、声楽科伴奏楽譜送付用封筒を用いてはならない。
	チェンバロ (Cemb)	I. 下記の課題曲を演奏する。 (当日一部省略を指示することがある。繰り返しはすべて省略) ①J.S.Bach : Das wohltemperierte Klavier a) 第1巻よりPräludium und Fuge f-moll Nr.12 BWV857 b) 第2巻よりPräludium und Fuge D-Dur Nr.5 BWV874 ②D.ScarlattiのソナタK.1~30より、任意の2曲 ③J.J.FrobergerまたはLouis Couperin の組曲の中からAllemande, Courante, Sarabande, Gigueを1曲ずつ選んで演奏する。 (ただし同一の組曲から選ぶこと。) II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)
	バロックヴァイオリン (BVn)	I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。) ①D.Castello, G.B.Fontana, G.P.Cima又は同時代のイタリアの作曲家の作品から1曲 ②F.Geminiani : The Art of playing on the violin (1751) Compositionから1曲、 または、J.S.Bach : Solo Sonata No.1 BWV1001 第4楽章 Presto ③G.Ph.Telemann : Methodische Sonaten 第1巻(1728)第1番~第6番のうち1曲、またはJ-M.Leclairのソナタより任意の1曲 II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)
	リコーダー (Rec)	I. 下記の課題曲を演奏する。(当日一部省略を指示することがある。) ①Jacob van Eyck「笛の楽園」より任意の1曲 (ソプラノリコーダーを使用。ピッチは自由) ②J-M.Hotteterre : Suite 第4番 Sonate (Oeuvre Cinquième 1715) 全楽章 (バロックタイプのトレブルを使用。ニ短調に移調して演奏。ピッチはa'=415。) ③F.Barsanti : 作品1(1724年)より任意のソナタ1曲、全楽章 (バロックタイプのトレブルを使用。ピッチはa'=415) II. 当日課する通奏低音課題を、チェンバロで実施する。(予見時間5分)

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等															
◎邦楽共通注意事項 受験者は、志願する部門に応じて下記の課題曲および自由曲を暗譜で演奏すること。 ただし、長唄・常磐津・清元の各志願者は、唄本（歌詞のみ）を用いてよい。																	
邦楽	三味線音楽	長唄三味線 常磐津三味線 清元三味線 長唄 常磐津 清元	第一回 <table border="1"> <thead> <tr> <th>志願部門</th> <th>課題曲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長唄三味線 長唄</td> <td>秋色種 (十世杵屋六左衛門 作曲) 多摩川 (五世杵屋勘五郎 作曲)</td> </tr> <tr> <td>常磐津三味線 常磐津</td> <td>千代の友鶴 (五世岸澤式佐 作曲) 廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)</td> </tr> <tr> <td>清元三味線 清元</td> <td>子守 (初世清元斎兵衛 作曲) 雁金 (二世清元梅吉 作曲)</td> </tr> <tr> <td>邦楽囃子(小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " (笛)</td> <td>鶴亀 (十世杵屋六左衛門 作曲) 老松 (四世杵屋六三郎 作曲) 越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)</td> </tr> </tbody> </table> 当日、この曲の中より試験官の指定する曲とその箇所を演奏すること。	志願部門	課題曲	長唄三味線 長唄	秋色種 (十世杵屋六左衛門 作曲) 多摩川 (五世杵屋勘五郎 作曲)	常磐津三味線 常磐津	千代の友鶴 (五世岸澤式佐 作曲) 廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)	清元三味線 清元	子守 (初世清元斎兵衛 作曲) 雁金 (二世清元梅吉 作曲)	邦楽囃子(小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " (笛)	鶴亀 (十世杵屋六左衛門 作曲) 老松 (四世杵屋六三郎 作曲) 越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)				
		志願部門	課題曲														
長唄三味線 長唄	秋色種 (十世杵屋六左衛門 作曲) 多摩川 (五世杵屋勘五郎 作曲)																
常磐津三味線 常磐津	千代の友鶴 (五世岸澤式佐 作曲) 廓八景 (五世岸澤式佐 作曲)																
清元三味線 清元	子守 (初世清元斎兵衛 作曲) 雁金 (二世清元梅吉 作曲)																
邦楽囃子(小鼓) " (大鼓) " (太鼓) " (笛)	鶴亀 (十世杵屋六左衛門 作曲) 老松 (四世杵屋六三郎 作曲) 越後獅子 (九世杵屋六左衛門 作曲)																
邦楽囃子	第二回 A. 自由曲1曲 明治45年(西暦1912年)以前に作曲された曲で、第1回課題曲を除いたものを選ぶこと。 時間を要する曲で、上・下又は上・中・下に分かれているものは、それぞれ各1曲とする。 B. 志願部門の課題曲より、下記区分に従い1曲を選ぶこと。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>志願部門</th> <th>選択分野</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>長唄三味線</td> <td>長唄</td> </tr> <tr> <td>常磐津三味線</td> <td>常磐津</td> </tr> <tr> <td>清元三味線</td> <td>清元</td> </tr> <tr> <td>長唄</td> <td>長唄三味線</td> </tr> <tr> <td>常磐津</td> <td>常磐津三味線</td> </tr> <tr> <td>清元</td> <td>清元三味線</td> </tr> <tr> <td>邦楽囃子</td> <td>長唄三味線又は長唄</td> </tr> </tbody> </table>	志願部門	選択分野	長唄三味線	長唄	常磐津三味線	常磐津	清元三味線	清元	長唄	長唄三味線	常磐津	常磐津三味線	清元	清元三味線	邦楽囃子	長唄三味線又は長唄
志願部門	選択分野																
長唄三味線	長唄																
常磐津三味線	常磐津																
清元三味線	清元																
長唄	長唄三味線																
常磐津	常磐津三味線																
清元	清元三味線																
邦楽囃子	長唄三味線又は長唄																
(注) - 三味線の試験においては、受験者には三味線のみをひかせ、唄・浄瑠璃は係員が担当する。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。 - 邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。 - 上記1.及び2.にかかわらず、各自の選んだ自由曲について、本学部が伴奏者の同伴を必要と判断した場合は、その旨を2月中旬までに試験時連絡先へ通知する。この場合、受験者は試験当日伴奏者を同伴すること。 - 三味線及び邦楽囃子の楽器は各自持参を原則とするが、長唄三味線は本学で用意した楽器を使用することもできる。(曲目提出用紙に持参・借用の区別を明記すること。) - 邦楽囃子のうち、笛の受験者は能管及び4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。 唄、浄瑠璃の試験に関しては扇子を持参すること。 - 邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問を行うことがある。 - 邦楽囃子第二回Bにおいては、譜面使用可とする。																	

科	専攻 (声種・楽器等)	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等		
邦	日 本 舞 踊	第一回	課題曲 2 曲 男形 長唄 「老松」 女形 長唄 「藤娘」(潮来出島) 本学で用意した録音テープで、両曲、試験官の指定した箇所を踊る。 (注) 音源はコロンビア版、芳村伊十郎長唄全集による録音テープを使用する。	
		第二回	A. 自由曲 1 曲 課題曲を除いた曲を選ぶ。 当日録音テープを持参、提出し、試験官の指定する箇所を踊る。 B. 口頭試問 舞踊に関する基本的な試問を行う。 C. 本学で用意した音を聴いて、その場で振りをつける。 (注) 第一回、二回とも小道具は用いず、扇子及び手拭いをもって代用すること。	
楽	箏 曲	山田流	第一回	箏：課題曲 1 曲 下記の中から 1 曲を選択する。 『白 の 聲』 三世山登松齡 作曲 『近江八景』 山登萬和 作曲 『乱 輪 舌』 八橋検校 作曲
			第二回	箏：自由曲 1 曲 ※第 1 回受験曲を除いた古典・近代・現代曲 (第 1 回で受験した曲を除き、課題曲としてあげられている曲を選択できる。) ※別科を併願する場合は、別科課題曲を除く。 三絃：課題曲 1 曲 下記の中から 1 曲を選択する。 『秋の七草』 文部省音楽取調掛 作曲 『子の日の遊』 二世山木太賀 作曲
		生田流	第一回	箏：課題曲 1 曲 下記の中から 2 曲を選択し、試験当日そのうちの 1 曲を受験者が抽選により決定する。 《 楫 枕 》 菊岡検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壺越 (D) 《 さ む し ろ 》 在原勾当 作曲 一は神仙 (C) 《 新 浮 舟 》 松浦検校 作曲・八重崎検校 箏手付 一は壺越 (D) 《 新 娘 道 成 寺 》 石川勾当 (菊岡検校) 作曲・宮原検校 箏手付 一は神仙 (C)
			第二回	箏：自由曲 1 曲 1909 (明治42) 年以降に作曲、又は手付けされた曲。 ただし、楽章単位ではなく 1 曲単位で受験すること。 三絃：課題曲 1 曲 下記の中から 1 曲を選択する。 《 秋 の 初 風 》 宮城道雄 作曲 I の糸は壺越 (D) 《 み だ れ 》 八橋検校 作曲 I の糸は壺越 (D) 《 末 の 契 り 》 松浦検校 作曲 I の糸は壺越 (D) (次頁に続く)

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
邦	箏曲	(箏曲共通注意事項) 1. 第一回・第二回試験とも暗譜で演奏する。 2. 演奏は、箏は立奏(椅子)で行う。三絃は座奏でも立奏(椅子)でもよい。 3. 演奏箇所は試験の際に指示する。 4. 本手・替手(高音・低音)のあるものは、どちらかを受験曲目提出用紙に明記すること。 5. 邦楽一般及び箏曲について簡単な試問を行うことがある。 (山田流試験に関する注意事項) 1. 第二回試験(箏)は、曲名、作曲者名を受験曲目提出用紙の所定欄に明記すること。 2. 原則として箏・三絃ともに各自持参の楽器を使用する。ただし、本学で用意した箏・三絃の使用も可能。なお、受験曲目提出用紙の所定欄に持参・借用の別を記入すること。 (生田流試験に関する注意事項) 1. 箏は本学で用意する(18番絹糸)。 2. 三絃は各自持参を原則とするが、本学で用意した楽器を使用することもできる。(願書に、持参・借用の区別を明記すること。) 3. 演奏中の糸切れは減点の対象とはしない。	
		第一回	選択曲 1曲 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 琴古流『三谷菅垣』『雲井獅子』 都山流『紅葉』『朝風』(流祖 中尾都山 作曲) ア. 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること。
	尺八	第二回	課題曲 1曲 尺八本曲 琴古流『一二三鉢返調』 都山流『木枯』(流祖 中尾都山 作曲) 選択曲 2曲 ①外曲古典 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 『都の春』『白の声』『夕顔』『茶湯音頭』 ②外曲新曲 下記のうちから1曲を選んで演奏する。 『赤壁の賦』(中能島欣一 作曲) 『春の訪れ』(宮城道雄 作曲) ※②外曲新曲については、五孔の一尺六寸管(竹製)を用いること。 ※琴古流の『赤壁の賦』は、邦楽社刊箏譜『赤壁の賦』(中能島欣一著)に掲載の尺八譜による。 ア. 五孔尺八の一尺八寸管(竹製)を用いること(選択曲②は除く) イ. 演奏箇所は、試験の際に指示する。 ウ. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 エ. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。
		(注) 1. 尺八受験者は出願の際、琴古流・都山流のいずれかを選択し、出願すること。 2. 全曲暗譜とする。	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
邦	能楽 (囃子を除く)	第一回	(イ) シテ方 (観世流及び宝生流) (A) 謡曲「紅葉狩」サシより中入まで、及び 「鶉飼」待謡より終わりまで (B) 仕舞「田村」キリ (ロ) ワキ方 (下掛宝生流) (A) 謡曲「紅葉狩」サシより中入まで、及び 「鶉飼」待謡より終わりまで (B) 仕舞「春栄」 (ハ) 狂言方 (和泉流) (A) 謡曲「風車」及び「柳の下」 (B) 小舞「花の袖」 ただし、謡曲の謡う部分については、当日指定する。
		第二回	謡曲及び仕舞又は小舞自由曲1曲ずつ(ただし、第1回および別科の課題曲を除く。)謡曲はツヨ吟とヨワ吟のある曲を選ぶこと。謡曲の謡う部分については、当日指定する。
		(注) 1. 第一回、第二回とも観世流、宝生流、下掛宝生流、和泉流のいずれかで受験すること。 2. 能楽について簡単な試問を行うことがある。 3. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。	
	能楽囃子	第一回	囃子 下記(イ)～(二)より受験する楽器及び課題曲をひとつ選択。 (イ) 笛 (一噌流)「早舞」三段 (ロ) 小鼓 (幸流)「天鼓」キリ (ハ) 大鼓 (高安流)「屋島」キリ (二) 太鼓 (観世流)「山姥」キリ
		第二回	囃子 自由曲(ただし、第1回及び別科の課題曲を除く。) 謡曲 下記の中から1曲を自由選択。(ただし観世流、または宝生流のいずれかで受験すること。) (イ)「紅葉狩」サシより中入まで (ロ)「鶉飼」待謡より終わりまで (ハ)「竹生島」クセ上げより「下界の龍神現れたり」まで
		(注) 1. 上記の曲を一噌流、幸流、高安流、観世流(太鼓)のいずれかで受験すること。 2. 笛、小鼓、太鼓の試験に際しては、各自持参の楽器を使用してもよい。ただし、大鼓については、楽器を使用しない。 3. 地謡の流儀は観世流、または宝生流のいずれかを選ぶこと。 4. 能楽について簡単な試問を行うことがある。 5. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。	

科	専攻 (声種・楽器等)		試験内容及び試験曲等		
邦楽	雅	笙 箏 龍笛	第一回	(A) 下記の3曲の中より1曲を指定し、暗譜による「唱歌テスト」を行う。 (B) 下記の3曲の中より1曲を指定し、暗譜による「音取」及び「実技テスト」を行う。	
				第一回試験課題曲 1. 沓越調「迦陵頻急」 2. 双調「武徳楽」 3. 太食調「抜頭」	
	楽		第二回	(C) 下記の課題曲により、第1回試験の(A)及び(B)の試験を再度行う。 (D)「舞」の為のリズムテスト (E)「雅楽」についての試問をする。	
				第二回試験課題曲 1. 平調「三臺塩急」 2. 黄鐘調「越殿楽」 3. 盤渉調「千秋楽」	
				(注)○ 雅楽専攻で受験できる楽器は、「笙」、「箏」、「龍笛」各専攻の竹製楽器とする。 ○ 実技試験は、管絃吹で行う。	
楽理			第一回	1. 国語（試験時間：2時間） 国語総合・現代文・古典 2. 外国語（試験時間：2時間） 英語（Ⅰ・Ⅱ・リーディング・ライティング）、ドイツ語、フランス語のうち1科目を選択する。	
			第二回	小論文（含、口述試問（試験時間：筆記2時間） 音楽学の学習に必要な基礎的能力を問う課題文。（課題は当日出題する。）	

科	専攻 (声種・楽器等)	試験内容及び試験曲等	
音楽環境創造		第一回	学力検査〔音楽（音楽Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）〕（60分）
		第二回	小論文および面接（自己表現を含む） ●小論文（120分） ●面接（20分）自己表現を含む。 ○自己表現 下記の1～3のいずれかを選択し（受験票に記入）、制限時間内（5分）で行うこと。 1. 演奏（声を含む） ※ 音楽能力・音楽的感性をアピールしたい場合 2. パフォーマンス（身体表現、舞踊、朗読等） ※ 身体表現能力・演劇的感性をアピールしたい場合 3. プレゼンテーション （パネルやチャート図等によるプランの提示、楽譜等の作品、研究計画書等） ※ 演奏技術・身体技能よりも、企画・アイデアをアピールしたい場合（自己表現の注意事項） ・1人でできるもの（伴奏者・共演者は認めない） ・セッティングを含めて5分以内で終了すること。 ・ピアノは用意されている。それ以外の楽器は各自持参すること。 ・AV機器（CD・オーディオカセット・DVD・VHSビデオ）は用意されている。 ・コンピュータを持参して使用することは可能だが、機器についてのサポートは一切与えられないので、全て自己責任にて用意すること。 ・「2. パフォーマンス」を行う試験場の床は一般的なフローリングである。床を傷つけないような演目、靴、衣装であること。 （パフォーマンスで使用できる広さは、幅約8m×奥行き約6m。天井の高さは約2m30cm。）

● 音楽環境創造科受験者の志望理由書の提出について

音楽環境創造科志願者は、志望理由書（800字以内。本学所定の用紙に手書きで記入のこと）を願書とともに提出すること。志望理由書は面接時の参考とする。

①音楽に関する基礎能力検査

1. 筆記試験

a) 聴音書き取り (試験時間: 約30分)

単旋律 (2題)

複旋律 (1題)

2音間の音程を聴き分ける問題 (5題)

四声体和声 (1題)

作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。
(31ページの例題程度のもの。)

b) 楽典 (試験時間1時間)

音楽環境創造科を除く全科の志願者に課す。和声・楽式論等作曲法の内容は含まない。

2. 実技試験

a) 新曲視唱

歌詞を伴わない初見唱。作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。

(32～33ページの例題程度のもの)

○作曲科、器楽科及び楽理科の志願者・・・・・・無伴奏の旋律1題

○声楽科の志願者・・・・・・無伴奏の旋律1題、伴奏付き旋律1題

b) 音符の音読 1題

作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。(33～34ページの例題程度のもの)

c) リズム課題 1題

作曲科、声楽科、器楽科及び楽理科志願者に課す。(34ページの例題程度のもの)

聴音書き取り例題

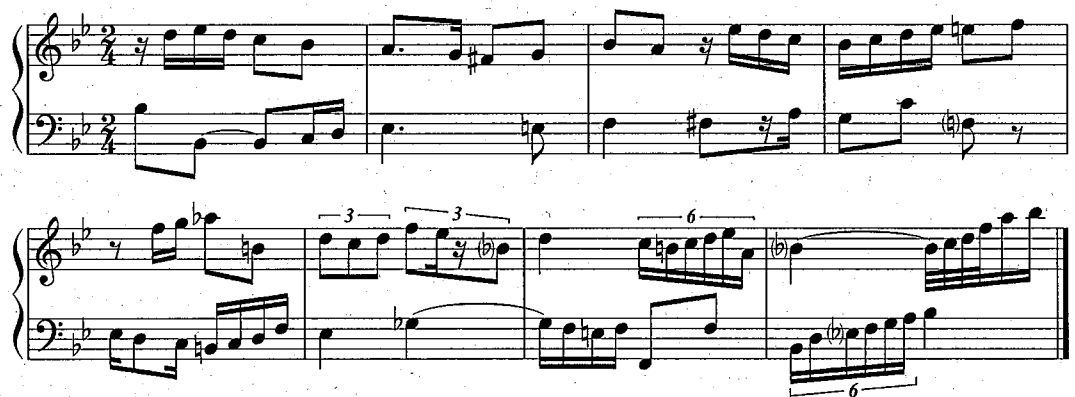
単旋律 1)



単旋律 2)



複旋律



2 音間の音程を聴き分ける問題

次の 2 音を聴き、その音程を答えなさい。



四声体和声



新曲視唱例題

●無伴奏の旋律（作曲科、器楽科、楽理科志願者）

Andantino (♩=96)

●無伴奏の旋律（声楽科志願者）

Allegro molto vivace

●伴奏付き旋律（声楽科志願者）

Andante quasi allegretto (♩=88 ca.)

(次ページに続く)

13 *f* *allarg.* *a piacere* 3 *p*

18 *Calmato* *p* *smorz.* *pp* *col canto*

音符の音読例題

五線譜上に記した音符を、下記の音部譜表の中から一つ選んで音読しなさい。

ト音記号（ト音譜表）

ヘ音記号（バス譜表・バリトン譜表）

ハ音記号（アルト譜表・ソプラノ譜表・メゾソプラノ譜表・テノール譜表）

●作曲科、器楽科、楽理科志願者

選択する音部譜表の例と音読の例

ト音記号（ト音譜表）・・・・・・ ソファミレミド、

ヘ音記号（バス譜表）・・・・・・ シラソファソミ、

ハ音記号（テノール譜表）・・・・ ファミレドレシ、

（次ページに続く）

●声楽科志願者



選択する音部譜表の例と音読の例

ト音記号（ト音譜表）・・・・ソラソファソ、

ヘ音記号（バス譜表）・・・・シドシラシ、

ハ音記号（アルト譜表）・・・・ラシラソラ、

リズム課題例題

手で拍子を振りながら*、リズム音形を「ラ」等のシラブルで発音し、リズムを表出しなさい。

*拍ごとに手を上から下へ振り下ろす、あるいは手で拍子を振り分ける

●作曲科、器楽科、楽理科志願者



●声楽科志願者



②副科実技等

1. 副科ピアノ

受験者区分	試験内容及び課題曲等
作曲科	次の(イ)、(ロ)、(ハ)から1つ選択すること。
器楽科 (オルガンのみ)	(イ) J. S. Bach : Das Wohltemperierte Klavier 平均律ピアノ曲集第1巻、第2巻より任意の1曲 (Praeludium及びFugaの両方を準備する事。)
指揮科	(ロ) L. v. Beethoven : Klaviersonaten Op. 2 No. 1、2、3 Op. 7 Op. 10 No. 1、2、3 Op. 13 Op. 14 No. 1、2 Op. 22
楽理科 (ピアノでの志願者)	の中から1曲を選び、その第1楽章 (ハ) F. Chopin : 練習曲集Op. 10、25より任意の1曲 (注) いずれも暗譜とする。繰り返しなし。
声乐科	(1) 音階 : Hanon No. 39の中から当日指定する。 同一調号による長調と短調 但し速度を♩ = 100 程度以上とする。 (注) 長調の音階は繰り返しなし。短調の音階は和声的短音階を1回弾いた後、続けて旋律的短音階を1回弾き、終止形をつけて終わる。
器楽科 (弦楽、管打楽)	(2) 下記のソナチネ、ソナタより1曲を選び、その第1楽章。 Kuhlau : Op. 20 No. 1, 2, 3 Op. 55 No. 1, 2, 3 Clementi : Op. 36 No. 2, 3, 4, 5, 6 Haydn : Hob. XVI/35 (C-dur) Mozart : KV 545 (C-dur) Beethoven : Op. 49 No. 1, 2 Dussek : Op. 20 No. 1 (注) (1)、(2) とも暗譜とする。繰り返しなし。

2. ピアノ以外の副科実技（楽理科のみ）

受験者区分	試験内容及び課題曲等
楽理科は、ピアノ以外の右記の楽器等により副科実技を受験することができる。	オルガン・チェンバロ・弦楽器・管楽器・打楽器・邦楽器（三味線・箏・尺八・邦楽囃子・能楽囃子・雅楽） ただし、弦楽器・管楽器で受験する場合に使用できる楽器は、器楽科弦楽器・管楽器の志願者が出願できる楽器に限る。 試験曲は、ヴァイオリン及び邦楽器の場合を除き自由曲である。 ヴァイオリン課題曲 W. A. Mozart : Violin Concerto No. 3 in G major, K. 216より 第1楽章、Allegro (注) Cadenzaを除く。暗譜とし、伴奏なし。 邦楽課題曲 ・三味線 「小鍛冶」（二世杵屋勝五郎作曲） ・箏曲（山田流） 「秋の七草」（音楽取調掛作） ・箏曲（生田流） 「春の曲」（吉沢検校作曲）一＝壺越（D） ・尺八（琴古流・都山流）共通 「六段の調」（八橋検校作曲） ・邦楽囃子 「五郎時致」（三升屋二三治作詞、十代目杵屋六左衛門作曲） (注) 四拍子の中より一つを選択する。 ・能楽囃子 笛 「中ノ舞」 小鼓「羽衣 クセ」 大鼓「羽衣 クセ」 太鼓「鶴亀 キリ」 ・雅楽 平調「越天楽」 (注) 管楽器の中より一つを選択する。 ※上記いずれかの楽器で受験した場合は、副科ピアノを受験する必要はない。

3. ピアノ新曲

受験者区分	試験内容及び課題曲等
作曲科	初見奏

4. 和声

受験者区分	試験内容及び課題曲等
指揮科 楽理科	指揮科及び楽理科志願者のみに課す。試験時間1時間30分。 与えられたバス及びソプラノの声部により、それぞれ4声体の和 声を作る。指揮科課題・楽理科課題とも近親転調を含む。

大学別科

試験内容および試験曲等

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
声楽	ソプラノ(S) アルト(A) (メゾソプラを含む) テノール(T) バス(B) (バリトンを含む)	自由曲1曲を演奏する。(オペラ、オラトリオのアリアは原調。) 暗譜のこと。 (注) 1. 伴奏楽譜は各自提出しなければならない。 2. 演奏する曲は学部声楽科課題曲と同じものでも差しつかえない。 3. 演奏時間は4分以内とする。 4. 伴奏者は本学で用意する。
器楽	ピアノ (P f)	次の11曲から1曲を選択し、その第1楽章を演奏すること。 Beethoven : ピアノソナタ ・第2番 イ長調 作品2-2 ・第3番 ハ長調 作品2-3 ・第4番 変ホ長調 作品7 ・第7番 二長調 作品10-3 ・第11番 変ロ長調 作品22 ・第16番 ト長調 作品31-1 ・第17番 二短調 作品31-2 ・第18番 変ホ長調 作品31-3 ・第22番 ヘ長調 作品54 ・第24番 嬰ヘ長調 作品78 ・第27番 ホ短調 作品90 I) 演奏は暗譜とする。 II) 時間の都合で演奏を一部省略させることがある。
	オルガン (Org)	自由曲 (注) 実技試験の行われるオルガンの仕様については、本冊子学部オルガン科の項を参照すること。当日、時間の都合により一部省略させることがある。
	ヴァイオリン (V n)	W.A.Mozart : Violin Concerto No.4 D-dur 第1楽章 ヨアヒムのCadenzaを使用のこと。 (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。
	ヴィオラ (V a)	(A) C.Stamitz : Viola Concerto No.1 二長調 (D-dur) より第1楽章 (Cadenzaを含む。) (B) F.A.Hoffmeister : Viola Concerto 二長調 (D-dur) より第1楽章 (Cadenzaを含む。) (注) いずれも Henle 版を使用し、Cadenza はAを演奏すること。 時間の場合により一部を省略させることがある。 (A) (B) のどちらかを選択し演奏する。
	チェロ (V c)	次のうち、任意の1曲を選んで演奏すること。 (A) L.Boccherini : Concerto B-dur 第1楽章 (Grützmacher 編) Cadenza は除く。 (B) J.Haydn : Concerto C-dur 第1楽章 (楽譜は何版を使ってもよい) Cadenza は除く。 (C) C.Saint-Saëns : Concerto a-moll Op.33 第1楽章 (D) E.Lalo : Concerto d-moll 第1楽章 (初めから117小節 Lento まで) (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。
	コントラバス (C b)	自由曲 (注) 暗譜とし、伴奏なしとする。場合により一部を省略させることがある。
	ハープ (H p)	自由曲 (注) 暗譜とする。場合により一部を省略させることがある。

専修	声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
器 管 金 管 打 楽 器	◎管楽器共通注意事項 (1) 音階 各調の中より当日指定する。ただし、金管楽器は音楽学部に進じる。 (2) 課題曲 ただし伴奏はなしとする。 (注) 特に指定したもの以外は、楽譜を使用してもよい。	
	木 管	フルート (F l) J.Ibert : Pièce
	オーボエ (O b)	H.Holliger : Sonate für Oboe solo より II Capriccio (Schott 版)
	クラリネット (C l)	C.M.v.Weber : Konzert Nr.1 f-moll für Klarinette und Orchester op.73 第1楽章 (パールマンのカデンツァを含む)
	ファゴット (F g)	C.M.v.Weber : Concerto for Bassoon 第2,3楽章 (何版にても可)
	サクソフォーン (S x)	J.Ibert : Concertino da Camera (Leduc 版)
	ホルン (H r)	W.A.Mozart : Konzert für Horn und Orchester Nr.2 KV.417 Es Dur 第1楽章
	トランペット (T p)	ARBAN Célèbre Méthode Complète de TROMPETTE Cornet à Pistons et Saxhorn (Leduc 版) 12 Etudes de Style より (p.5)、 第1番 Andante espressivo 第2番 Andante espressivo および、 27Etudes Modernes より (p.62)、第1番 (♩= 100) J.Ibert の中から 当日指定する。
	テナー・ トロンボーン (T T b)	(A)  以下、第7ポジションまで吹くこと。 (注) 暗譜とする。 (B) G.Masson : Douze Etudes Variées pour Trombone à Coulisse d'après des Auteurs divers (Leduc 版) の1～7より当日指定する。
	バス・ トロンボーン (B T b)	(A)  以下、第7ポジションまで吹くこと。 (注) 暗譜とする。 (B) O.Blume : 36 Studies for Trombone with F Attachment (Carl Fischer 版) No.14 ～ No.36 より当日指定する。
	ユーフォニアム (E u p h)	学部第1回に進じる。
	チューバ (T u)	学部第1回に進じる。
	打 楽 器 (P c)	(1) 小太鼓による基本奏法 1つ打ち、2つ打ち、9つ打ち、ロール (< > , < > , < > , 等) (2) 音階 (鍵盤打楽器による) (3) Collection Drum Solos (Ludwig 社版) より (p.4 ～ p.19 まで) 当日指定する。 (4) 自由曲 (5) 音感テスト (注) 小太鼓は、各自持参すること。

専修		声種・楽器等	試験内容及び試験曲等
器 古 楽 楽		◎古楽共通注意事項 ① ソロおよび伴奏に使えるチェンバロは、2段鍵盤フレンチタイプ(W.ダウド製作a'=415, 8'8'4", FF-f")のみとする。 ② 実技試験の行われるオルガンの仕様については、本冊子学部オルガン科の項を参照すること。 ③ フォルテピアノは、18世紀末のウィーン式モデル(a'=430, 音域FF-g^{'''})である。 ④ 必要な伴奏者は同伴すること。ただし、オブリガートパートが必要な場合は、すべてチェンバロで代用すること。 ⑤ すべての受験生は、受験曲目提出用紙に演奏する自由曲の作品名を書いて、出願とともに提出すること。 ⑥ 各自の演奏する楽譜を3部ずつ用意して演奏順に綴じ、出願とともに教務係に送付すること。なお、所定の出願用封筒に用意した楽譜が入りきらない場合、出願書類は所定の封筒にて提出し、当該楽譜のみ「別科古楽受験用楽譜在中」と表書きした任意の封筒にて出願と同時に書留速達により郵送すること。このとき、学部声楽科伴奏楽譜送付用封筒を用いてはならない。	
		バロック声楽 (BV)	5分程度の自由曲
		バロックヴァイオリン (BVn)	5分程度の自由曲
		バロックチェロ (BVc)	5分程度の自由曲
		リコーダー (Rec)	5分程度の自由曲
		チェンバロ (Cemb)	5分程度の自由曲
		バロックオルガン (BOrg)	5分程度の自由曲
		フォルテピアノ (Fp)	5分程度の自由曲

【予告】

平成25年度入試より、古楽科別科入試にて面接を課すこととする。

専修	声 種 ・ 楽 器 等	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等																
邦	◎邦楽共通注意事項 受験者は、志願する専修部門に応じて下記の課題曲を暗譜で演奏すること。 ただし、長唄・常磐津・清元の志願者は唄本（歌詞のみ）を用いてもよい。																	
	長唄三味線 常磐津三味線 清元三味線 長唄 常磐津 清元 邦楽囃子（笛含む）	●専修部門課題曲																
		<table><tr><td>専修部門</td><td>課 題 曲</td></tr><tr><td>長唄三味線</td><td>「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）</td></tr><tr><td>常磐津三味線</td><td>「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）</td></tr><tr><td>清元三味線</td><td>「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）</td></tr><tr><td>長唄</td><td>「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）</td></tr><tr><td>常磐津</td><td>「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）</td></tr><tr><td>清元</td><td>「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）</td></tr><tr><td>邦楽囃子 （笛含む）</td><td>「鶴亀」 （十世杵屋六左右衛門 作曲） 「外記猿」 （十世杵屋六左右衛門 作曲）</td></tr></table>	専修部門	課 題 曲	長唄三味線	「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）	常磐津三味線	「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）	清元三味線	「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）	長唄	「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）	常磐津	「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）	清元	「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）	邦楽囃子 （笛含む）	「鶴亀」 （十世杵屋六左右衛門 作曲） 「外記猿」 （十世杵屋六左右衛門 作曲）
		専修部門	課 題 曲															
		長唄三味線	「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）															
		常磐津三味線	「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）															
		清元三味線	「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）															
		長唄	「土蜘蛛」（上・切禿） （大薩摩絃太夫 作曲）															
		常磐津	「三保の松」 （六世岸澤式佐 作曲）															
		清元	「申酉」 （初世清元斎兵衛 作曲）															
邦楽囃子 （笛含む）		「鶴亀」 （十世杵屋六左右衛門 作曲） 「外記猿」 （十世杵屋六左右衛門 作曲）																
●専修部門以外の実技試験は、下記区分に従い自由曲1曲を選び、曲目提出用紙の所定欄に記入すること。ただし、暗譜の有無は問わない。																		
<table><tr><td>専修部門</td><td>専修部門以外の実技試験</td></tr><tr><td>長唄三味線</td><td>長唄 自由曲</td></tr><tr><td>常磐津三味線</td><td>常磐津 自由曲</td></tr><tr><td>清元三味線</td><td>清元 自由曲</td></tr><tr><td>長唄</td><td>長唄三味線 自由曲</td></tr><tr><td>常磐津</td><td>常磐津三味線 自由曲</td></tr><tr><td>清元</td><td>清元三味線 自由曲</td></tr><tr><td>邦楽囃子</td><td>長唄三味線又は長唄 自由曲</td></tr></table>	専修部門	専修部門以外の実技試験	長唄三味線	長唄 自由曲	常磐津三味線	常磐津 自由曲	清元三味線	清元 自由曲	長唄	長唄三味線 自由曲	常磐津	常磐津三味線 自由曲	清元	清元三味線 自由曲	邦楽囃子	長唄三味線又は長唄 自由曲		
専修部門	専修部門以外の実技試験																	
長唄三味線	長唄 自由曲																	
常磐津三味線	常磐津 自由曲																	
清元三味線	清元 自由曲																	
長唄	長唄三味線 自由曲																	
常磐津	常磐津三味線 自由曲																	
清元	清元三味線 自由曲																	
邦楽囃子	長唄三味線又は長唄 自由曲																	
1. 三味線の試験においては、受験者には三味線のみをひかせ、唄・浄瑠璃は係員が担当する。唄・浄瑠璃の試験においてはその反対。																		
2. 邦楽囃子の試験においては、「地」は係員が担当する。																		
3. 三味線及び邦楽囃子の楽器は、各自持参を原則とするが、長唄三味線は、本学で用意した楽器を使用することもできる。（曲目提出用紙に、持参・借用の区別を明記すること。）ただし、邦楽囃子のうち、笛の受験者は能管および4本から8本までの調子の竹笛を持参すること。竹笛の調子は試験当日に指定する。																		
4. 邦楽一般及び三味線音楽について簡単な試問を行うことがある。																		

[illegible]

専修	声 種 ・ 楽 器 等	試 験 内 容 及 び 試 験 曲 等
邦	尺 八	(1) 課題曲 1 曲 「未の契」 松浦検校作曲 「近江八景」 山登萬和作曲 「甲乙」 山本邦山作曲 以上の 3 曲のうち 1 曲を選択。 (2) 本曲 1 曲（曲目は自由）
		(注) 1. 流派は問わない。 2. 全曲暗譜とする。 3. 五孔尺八の一尺八寸管（竹製）を用いること。 4. 演奏箇所は試験の際に指示する。 5. 演奏は、椅子又は立姿勢で行う。 6. 邦楽一般及び尺八について簡単な試問を行うことがある。
	能 楽 (囃子を除く)	シテ方（観世流及び宝生流） 謡曲 「網之段」（桜川） 仕舞 「岩船」 ワキ方（下懸宝生流） 謡曲 「網之段」（桜川） 仕舞 「蟻通」 狂言方（和泉流） 謡曲 「大原木」 小舞 「海道下り」 (注) 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。
楽	能 楽 囃 子	下記の中から 1 つを自由選択 (イ) 笛 (一噌流)「男舞」(三段) (ロ) 小鼓 (幸流)「経正(政)」キリ (ハ) 大鼓 (高安流)「敦盛」クセ (二) 太鼓 (観世流)「杜若」キリ (昔男のヨリ) (注) 1. 笛以外の楽器は、地謡の流儀（観世流、宝生流のいずれか）を受験曲目提出用紙に記入すること。 2. 受験者は着物、袴、白足袋着用のこと。